

東京に居ながら数多ある創造集団の`誕生の瞬間、を目撃したことがない。にも関わらず、まだ学生だった穴迫新一が県内外若手3団体と共に上演した短編を観ているのは「運命」かも、と思ったり。虚実明暗生死が奇妙に入り混じる、ブルーエゴナクの劇世界を改めて、考えてみる。
(文:演劇ライター 尾上そら)

リードにある短編『年頃、』は、2011年12月に枝光アイアンシアターで行われた「九州若手規格『ムニムニ』」で上演されたもので、他には劇団背油こってり(大分)、不思議少年(熊本)、WET BLANKET(福岡)が参戦。北九州芸術劇場にその週末、何かしら観劇取材をしに来た筆者に「若手が面白いことしてるよ」と教えてくれた人がいた、のだと思う。そこは記憶になかったが、その方には改めて感謝したい。

今ならばLGBTQカテゴリーの物語は、自身のアイデンティティ、それがどこに在る何なのかと自問する若い女性のナイーブな心象を描いていた。そこには既に、以降の穴迫作品に通底する女性キャラクターの「原型」があったように思う。

ブルーエゴナク作品に限らず、穴迫戯曲の主軸を担うキャラクターは往々にして女性の場合が多い。同世代の若い女性を中心に、近年の作品には母親や祖母世代のキャラクターも登場。年齢設定に関わらず、穴迫が造形する女性のキャラクターたちは皆、深い。周囲や他者に過大な期待をせず、ある程度のことは受け入れつつ現実と向き合い対処する。と、同時に心情や価値観にはかなりの屈折が見られ、そこが否定や刺激にさらされると弾けたり暴走したり、自暴自棄になったりするのだが、そこに渦巻くのはドロドロと粘着な執着とは一線を画すもの。`客観性を失わぬままに狂う。とでも言えばいいのか、すこぶるドライでニヒリスティックな狂気を、筆者は穴迫作品の軸となる女性キャラたちから感じる。俗世の濁りを身にまとうことを拒否するような「彼女たち」は、世代や性別を超えてカッコいい。一方の男性キャラクターたちには、老いも若きも憎み切れないヘタレが多いのだが、これらは穴迫の女性観・男性観を反映しての造形なのか、機会があれば確かめてみたいと思う。

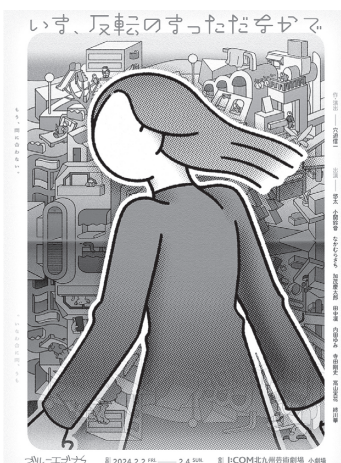
また劇世界のしつらえも独特で、時間軸がねじれて現在・過去・未来の境目が曖昧になっていたり、生き死にや虚実のあわいを登場人物たちがシームレスに往還するのは通常仕様。それらは流行りの異世界逃避ファンタジーではなく、今、目の前に広がるこの世界の輪郭や確かさへの不信や、反撃のようなものなのかも知れない。エゴナク作品では『訪れないとのために』(17年)や、

＼小劇場演劇の魅力に迫る！／

キタゲキ コラム Vol.4

虚実の境を独白で越えていく モノローグ

「ブルーエゴナク」はモノ語る



Vol.1~3の
コラムはこちら



10周年記念作品『バスはどこにも行かないで』(22年)、レジデント・アーティストに選ばれた京都のTHEATRE E9 KYOTOで制作・上演した『Doudemoi shi』(22年)、『波間』(23年)などは前述の特徴が顕著で、殊に少女たちのキャラと世界の終わりを俯瞰するような視点が秀逸な『訪れない〜』は、再演を希望するほど筆者のお気に入りだったりする。

そして、これら穴迫作品の柱となる戯曲の「言葉」は、現代日本の劇作家には珍しい長い独白=モノローグなのだ。目の前に広がる不穏な世界の描写も、他者に対する憤りや不安も、自身のこんがらがった心情をも、穴迫作品の登場人物たちは黙々と一人、語る。かつてラッパーを志していたという穴迫の語彙センスがいかんなく発揮された大量の独白は、呟きを繋げて編んだ装飾で自らを飾り鼓舞するようにも、世界を新たに作り変えるための呪文のようにも感じられる。特筆すべきは、生まれる言葉のうねりは耳にも脳にも心地よいこと。吟味された劇中の音、音楽とも相まって、観客を作品世界へと深く誘う。

そんな穴迫とブルーエゴナクが、10周年のその先をプレゼンする『いま、反転のまっただなかで』はいかなるものか。昨年末、このコラムではインヴェンターの取材を別件で穴迫にした折、言葉としては強いタイトルを彼は「与えられたことに応える形で遮二無二進んで来た<今>を一旦立ち止まり、さらなる行く先が、果たしてあるのかを自分に問うため」つけたと語った。未来のための、やや後ろ向きなケンカの売り方が彼らしく、そのための「言葉」たちが何をモノ語るのか、楽しみでしかない。

劇団ブルーエゴナク
いま、反転の
まっただなかで

J:COM北九州芸術劇場
小劇場

2月2日(金) 19:00
2月3日(土) 14:00/19:00
2月4日(日) 14:00

●料金
一般 3,000円
U24 2,500円(24歳以下、要身分証提示)
高校生以下 1,000円(要学生証提示)
一般ペアチケット 5,500円(2枚1組、前売のみ取扱)
*日時指定・全席自由
*初日割(2日19:00回のみ、前売のみ取扱)
一般・U24料金から300円引

J:COM北九州芸術劇場
KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER
KITAGEKI20